生徒を対象とするアンケート

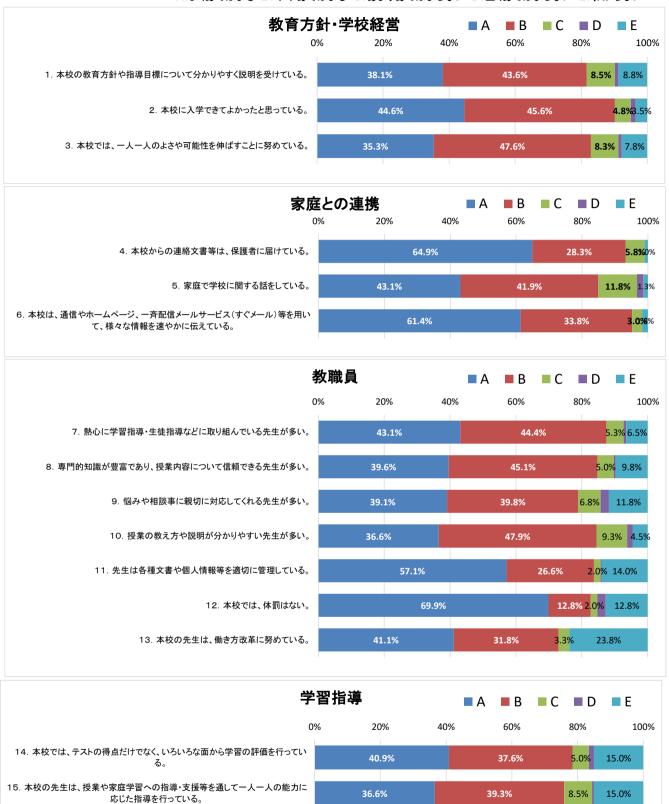
16. 本校では、ICTを活用した学習活動や協働的な学びの機会、オンライン等での

学習支援などがあり、それが学習の理解につながっている。

17. 総合的な探究の時間の内容は自分にとって有意義である。

有効回答数399件(回答率99%)

A:よくあてはまる B:ややあてはまる C:あまりあてはまらない D:全くあてはまらない E:わからない



39.3%

36.6%

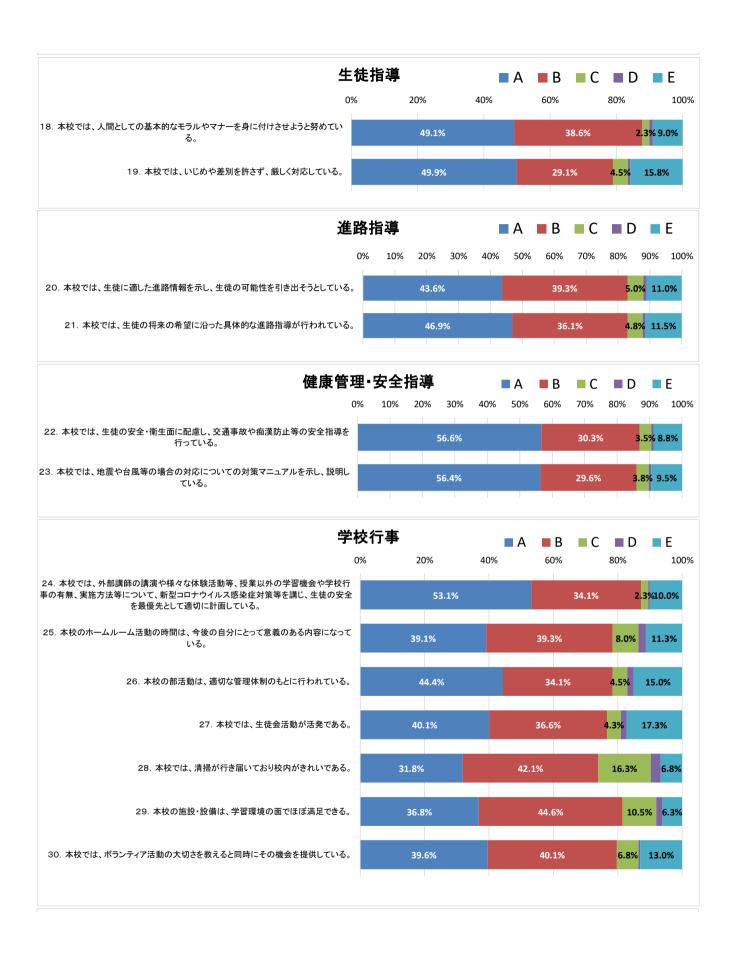
42.4%

42.4%

6.0% 11.3%

7.3%

10.5%



学校独自



90% 100%



A31 平常補習(1年は特講)や夏季補習、教育支援ツールによる小テストや提出課題。 スタディサプリなどを利用して、確かな学力をつけさせようとしている。

A32. 本校は、地域と連携して様々な活動を展開している。

B33. 総合的な探究の時間では、ICT機器や外部機関(周辺自治体や大学等)、スタ ディサプリ探究講座等を活用することで、「探究活動」を充実させている。

B34. 本校のスクールポリシーの具体的な内容を知っている。



【肯定的評価が90%以上の項目】

- 2. 本校に入学できてよかったと思っている。(90%)
- 4. 本校からの連絡文書等は、保護者に届けている。(93%)
- 6. 本校は、通信やホームページ、一斉配信メールサービス(すぐメール)等を用いて、様々な情報を速やかに伝えている。(95%)

⇒多くの生徒が、学校生活を肯定的に捉えている。昨年度肯定的評価が初めて90%を超えた(91%)「33.総合的な探究の時間ではIC T機器や外部機関(周辺自治体や大学等)、スタディサプリ探究講座等を活用することで、「探究活動」を充実させている。」も84%と依然 として高いものの、一昨年度並であるは考慮すべき側面である。

【肯定的評価が75%未満の項目】

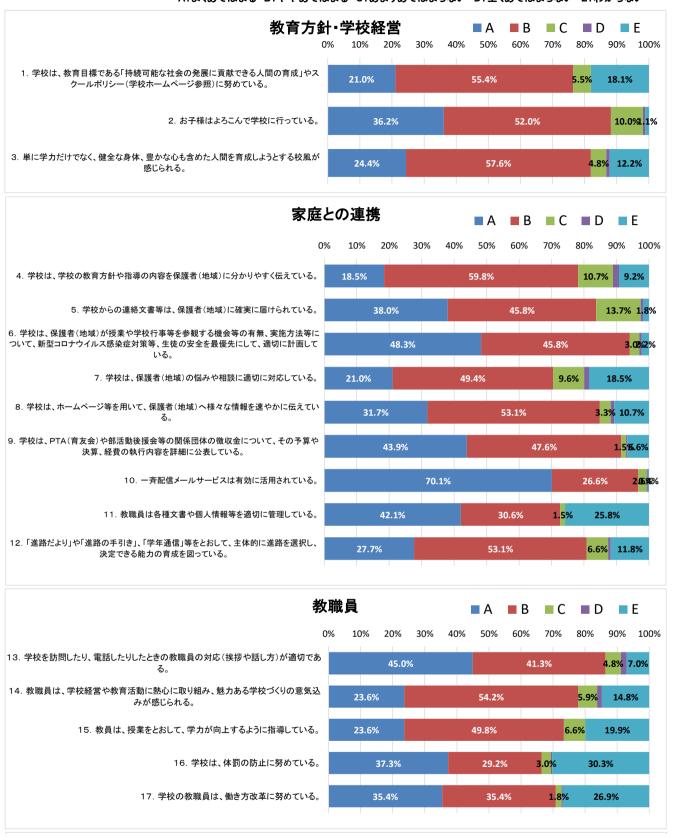
- 13. 本校の先生は、働き方改革に努めている。(73%)
- 28. 本校では、清掃が行き届いており校内がきれいである。 (74%)
- 34. 本校のスクールポリシーの具体的な内容を知っている。(63%)

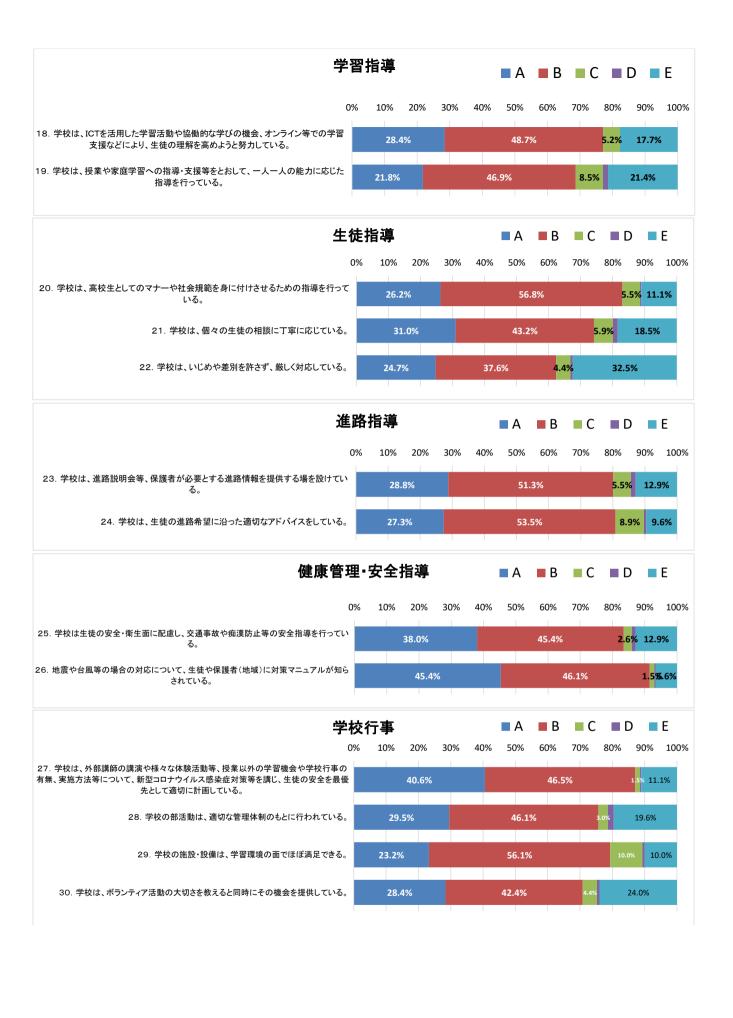
⇒34に関し、学習を始め学校の諸活動の中でスクールポリシーの観点を周知することが、その活動の意義や効果を高めると考える。評価の前 年度からの下落率で最も高かったのは、「15. 本校の先生は、授業や家庭学習への指導・支援等を通して一人一人の能力に応じた指導を行って いる。」(76%、下落率11%)であった。何が影響しているのか原因を分析し、対応が必要である。

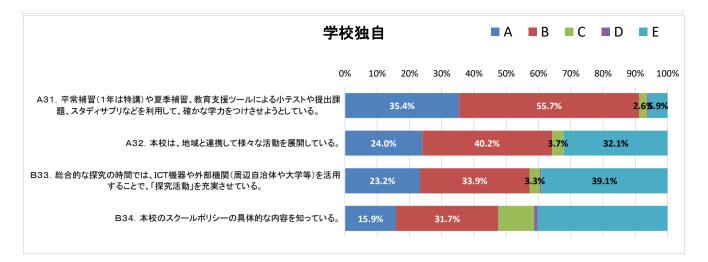
保護者を対象とするアンケート

有効回答数271件(回答率67%)

A:よくあてはまる B:ややあてはまる C:あまりあてはまらない D:全くあてはまらない E:わからない







【肯定的評価が90%以上の項目】

- 6. 学校は、保護者(地域)が授業や学校行事等を参観する機会等の有無、実施方法等について、新型コロナウイルス感染症対策等、生徒の安全を最優先にして、適切に計画している。(94%)
- 9. 学校は、PTA(育友会)や部活動後援会等の関係団体の徴収金について、その予算や決算、経費の執行内容を詳細に公表している。(92%)
- 10. 一斉配信メールサービスは有効に活用されている。(97%)
- 26. 地震や台風等の場合の対応について、生徒や保護者(地域)に対策マニュアルが知らされている。(92%)
- 31. 平常補習(1年は特講)や夏季補習、教育支援ツールによる小テストや提出課題、スタディサプリなどを利用して、確かな学力をつけさせようとしている。(91%)
- ⇒令和3年度アンケートとほぼ同じ結果(項目26が2年ぶりに90%を超えたが、令和3年度も89%が肯定的評価をしている。)である。安心・安全な学校生活づくりとともに、課外的な学習支援に対して、高い評価している。

【肯定的評価が70%未満の項目】

- 16. 学校は、体罰の防止に努めている。(66%)
- 19. 学校は、授業や家庭学習への指導・支援等をとおして、一人一人の能力に応じた指導を行っている。(69%)
- 22. 学校は、いじめや差別を許さず、厳しく対応している。(62%)
- 32. 本校は、地域と連携して様々な活動を展開している。(64%)
- 33. 総合的な探究の時間では、ICT機器や外部機関(周辺自治体や大学等)を活用することで、「探究活動」を充実させている。(57%)
- 34. 本校のスクールポリシーの具体的な内容を知っている。(48%)
- ⇒項目19を除き、30%以上の保護者が「わからない」と回答していることが大きく影響(特に項目33,34はおよそ40%)していると考えられるが、これらについてはさらなる情報発信による理解、周知が必要とされる。項目19の結果は、学力向上への期待がこれまで以上に高まっている表れと思われる。家庭学習を含めた学習習慣の形成や力のつく授業のあり方を検討することが求められる。